

2024年3月期 証券コード:9412

株主通信

株式会社スカパーJSATホールディングス

Space for your Smile



SKY Perfect JSAT Holdings Inc.



代表取締役社長
米倉 英一
Eiichi Yonekura

基礎収益力の向上と事業領域の拡大により、2030年の事業ビジョン実現を目指します。

Q1 2024年3月期の業績についてお聞かせください。

2024年3月期においては、宇宙事業セグメントではグローバル・モバイル分野、国内衛星ビジネス分野における増収等が利益を牽引しました。メディア事業セグメントにおいては、加入件数の減少による減収傾向は続いているものの、費用面での収支改善やFTTH事業収入の増収が営業利益に貢献しました。それらの結果、連結営業収益は前期比732百万円増加の121,872百万円、営業利益は前期比4,221百万円増加の26,545百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比1,928百万円増加の17,739百万円となり、過去最高益を達成しました。

Q2 2025年3月期の業績予想についてお聞かせください。

2025年は、引き続き両事業セグメントともに将来の成長に向けた資本投下を行う一方で、基盤事業の収益性、生産性の向上を図り、当期純利益において過去最高益の更新を目指します。

宇宙事業セグメントにおいては、安全保障分野や国内衛星ビジネス分野、グローバル・モバイル分野等での増収を見込んでいますが2024年3月末での4K左旋放送サービス終了の影響が大きく、営業収益は微増にとどまります。加えて、成長に向けた資本投下も予定していることから、前期比増収減益となる計画です。

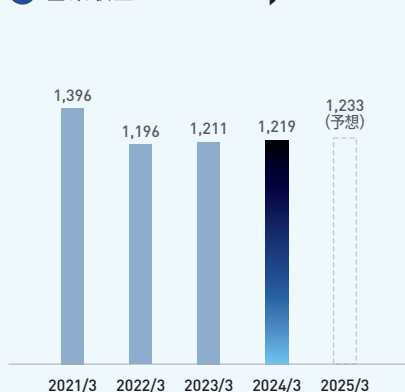
一方、メディア事業セグメントでは、加

入者減少による減収、FTTH再送信サービスや企業向けメディアソリューションサービスの増収、4K左旋放送サービス終了による費用減等により、前期比減収増益となる見込みです。

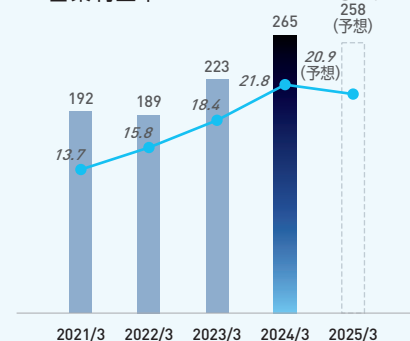
Q3 2030年に目指す姿に向けた取り組みについてお聞かせください。

この度、当社史上最大となる50Gbps級の通信容量を持つフルデジタル衛星「JSAT-31」を調達することを決定しました。既存の衛星フリートに2027年運用開始予定の「Superbird-9」とこの「JSAT-31」を加え、100Gbps超の次世代衛星通信基盤を構築します。また、日本電信電話株式会社との合併会社株式会社Space

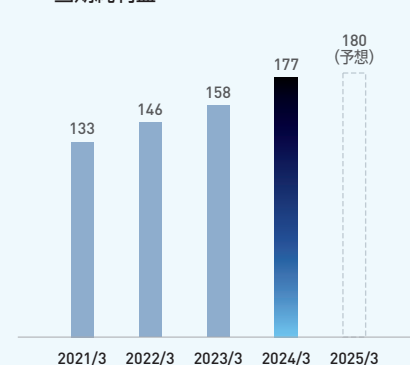
➤ 営業収益 1,219億円



➤ 営業利益 265億円 営業利益率 21.8%



➤ 親会社株主に帰属する当期純利益 177億円



* 四捨五入で表記しております。2022/3期以降は「収益認識に関する会計基準」を適用後の数値で表示しています。

Compassにおいて、英国AALTO社との協業により実現を目指すHAPS(高高度プラットフォーム)や、他社が保有する静止軌道衛星や非静止軌道衛星との連携により、あらゆるところへ通信の提供が可能なUniversal NTN(非地上系ネットワーク)を具現化します。メディア事業セグメントにおいてもコネクテッドTV事業がいよいよ始動いたします。「スカパー! プラス ネットスティック」のモニターを募り、実証実験を開始します。これにより、衛星放送プラットフォームから放送・配信を横断したハイブリッド型プラットフォームへの転換を図ります。

2030年に目指す姿の実現には、既存事業の持続的な成長も不可欠であり、積極的な資本投下を行います。宇宙事業セグメントでは、先述の新たに調達する衛星や地上インフラ等への設備投資を積極的に行います。メディア事業セグメントにおいても、堅調な成長を続けているFTTH再送信サービスおよびケーブルテレビ局向け多チャンネルサービスの推進や、放送・配信

の要であるスカパー東京メディアセンターの設備更新等、事業基盤の維持・拡大への資本投下も予定しています。また、パートナーと手を携え、新しいビジネスを創出すべく、宇宙関連スタートアップやファンドへの投資枠も設定しているほか、当社発の新会社を設立するなど事業領域全体の拡大を目指します。

資産効率、資本コスト等を意識しながら既存事業、開拓領域に資本投下するとともに、人的資本の強化にも注力します。従業員一人ひとりの活躍を促すリスクリング支援やスキルマップの整理と可視化を行い、注力する事業領域へ資金と人材を適切に配分していきます。

Q4 株主の皆様へメッセージをお願いします。

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

また、このたびの令和6年能登半島地震により被災された全ての方々へ、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

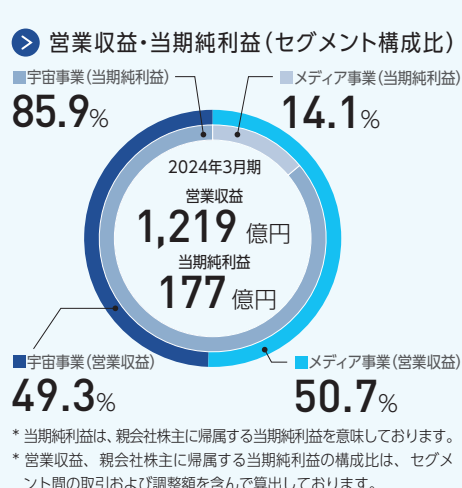
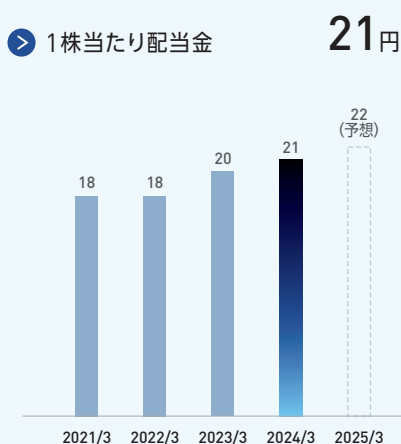
2024年3月期の連結業績や財政状態に加え、2022年4月に公表した5年間の株主還元方針等を勘案し、2024年3月期の1株当たりの期末配当額を、期初の予想から1円増やした11円とし、年間21円とさせていただきます。また、2025年3月期も親会社株主に帰属する当期純利益で過去最高益を目指すことも踏まえ、1株当たりの年間配当金を22円に増配することを計画しています。

成長に向けた投資と適切なリソースの配分により、さらなる企業価値の向上を目指します。

引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

既存事業も含め注力する領域を定め、資産効率、資本コストを意識した資本の投下により、企業価値の向上を目指す

既存設備を活用した事業推進、HTSを軸とした衛星フリート戦略、パートナーシップ強化やM&A



前回の株主アンケートで「宇宙事業はなじみのない領域である」「メディア事業はスカパー! 以外のサービスについて、具体的な内容が分かりにくい」というお声があったため当社の事業内容について改めてご紹介いたします。

お客様にどのような用途で当社のサービスをご利用いただいているかをご説明いたします。

宇宙事業

2023年度 営業収益 **647** 億円

30年以上にわたり静止衛星を保有・運用し、現在は北米上空～インド洋上空をカバーする静止衛星を17機保有。一般的に、1機あたり調達額200~400億円程度の衛星を設計寿命15年程度で減価償却。償却費等を上回る売上を立てることで利益を創出するビジネスモデル。



国内衛星通信

衛星通信の特長である耐災害性を活かし、官公庁や電力・ガス等の公共インフラ企業にBCP対策として通信回線を提供。その他、携帯電話基地局向けバックホール回線等を提供。長期契約等により事業基盤を強化。

営業収益構成比

48%



グローバル・モバイル

グローバル分野では、海外の官公庁やインフラ企業等へ通信回線を提供。モバイル分野では、航空機・船舶向けに通信回線を提供。特に航空機Wi-Fi需要が旺盛であり、成長が見込まれる分野。

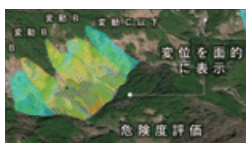
27%



国内衛星放送

スカパー! のプラットフォームサービスを利用するチャンネル事業者へ衛星回線を提供。

21%



新規事業領域

地球観測衛星から得られる画像や位置情報などの様々なデータを活用したサービスを提供。官公庁における安全保障需要や防災・減災分野に加え、新たな市場の開拓に取り組んでおり、成長を期待する分野。

4%

© Original ALOS-2 data provided by JAXA

メディア事業

2023年度 営業収益 **665** 億円

約30年、多様な伝送路を通じてさまざまなコンテンツをお届けしているプラットフォーム。約140チャンネルを擁する3つの多チャンネルサービスに加えて、光回線テレビやインターネット配信サービスを通じて、多様なコンテンツを提供。

スカパー!

放送

スカパー! 3サービス合計加入者数(IC数) **274**万件

営業収益構成比

64%

日本最大級の衛星有料多チャンネルプラットフォームとして顧客管理業務、加入者獲得プロモーション等を提供。チャンネル事業者/番組供給事業者からは業務手数料、加入者からは基本料等を売上として計上。



FTTH

光再送信サービス接続世帯数 **277**万件

14%

光回線を経由した地上波/BS放送、FMラジオならびにスカパー! の再送信サービスを提供。専用アンテナを設置しなくても視聴可能。今後もサービスエリア拡大による契約増加とともに大型マンションでの一括導入等により、成長を期待する分野のひとつ。



その他

チャンネル事業者/番組供給事業者向けの、番組送出業務など衛星放送に付随するサービスを中心に、メディアセンターの設備やノウハウなど放送のアセットを活かし、映像制作会社や配信プラットフォームなど民間企業へ課題解決サービスも提供。

22%

サステナビリティ関連ニュース

2023年
8月

海のクレヨン×TIGER コラボボトルを販売開始

「宇宙から見た地球の色」をもとに製作された「海のクレヨン」とタイガー魔法瓶株式会社がコラボレーションボトルを販売。「海のクレヨン」全12色のうち、バハマ、オーストラリア、キリバス共和国、台湾、奄美大島（日本）の5カ所の海の色を採用したボトルです。売上の一部は、「海のクレヨン」と同じく、キリバス共和国に寄付し、自然災害基金として活用いただく予定です。



▶ <https://www.tiger-corporation.com/ja/jpn/product/vacuum-insulated-products/mcs-a-j/>

2023年
11・12月

あの夏を取り戻せ～全国元高校球児野球大会2020-2023～をサポート

2020年の新型コロナウイルス感染症の流行により、甲子園の舞台に立つ夢を奪われた当時の高校球児たちが自ら立ち上がり、「全国元高校球児野球大会」の甲子園での開催を実現しました。アマチュア野球での中継や放送・配信の実績も活かし、彼らが再び夢を追いかけた3年越しの大会を全試合無料で放送・配信しました。



▶ <https://www.skyperfectjsat.space/sustainability/activity/0014/>

2023年
12月

初の「ポジティブインパクト・ファイナンス」による資金調達

企業の事業活動全体がもたらす環境・社会・経済領域へのインパクトを特定し、KPIと目標を設定することでポジティブインパクトの増大、ネガティブインパクトの低減を目指す融資契約を締結しました。

2024年
1月

「株式会社Orbital Lasers」設立 **PICK UP!**

2024年
2月

スカパーJSAT校でサッカーイベントを開催

「東南アジア教育支援プロジェクト」の一環として2021年にカンボジアのシェムリアップにスカパーJSAT校を開校。2023年7月開催のスカパー! ブンデスリーガジャパントーナメント2023にて、スカパーJSAT校へのサッカーゴール寄贈について賛同者を募りました。サッカーゴールの寄贈を記念し、地元のプロサッカーチーム「アンコールタイガーFC」の協力のもと、サッカー教室とサッカー大会を開催しました。



2024年
2月

内閣府主催「第6回宇宙開発利用大賞」環境大臣賞を受賞

スカパーJSATと伊藤忠商事株式会社が共同で、カタール環境省に対して提供したSAR衛星画像を活用した海上オイル漏れ検知サービスが、海洋環境保護の視点から特に顕著な功績があったと認められました。

PICK UP!

スカパーJSAT発スタートアップ「株式会社Orbital Lasers」設立

社内スタートアップ支援プログラムから始まったスペースデブリ除去プログラムを次のステージに進めるべく新会社「Orbital Lasers」を設立しました。スペースデブリは、地球温暖化や海洋プラスチック汚染と同様に重要な環境問題のひとつです。民間企業では世界初となる商用利用をめざして、レーザーによるスペースデブリ除去事業、高精度な地表面情報を提供する衛星ライダー事業に取り組めます。

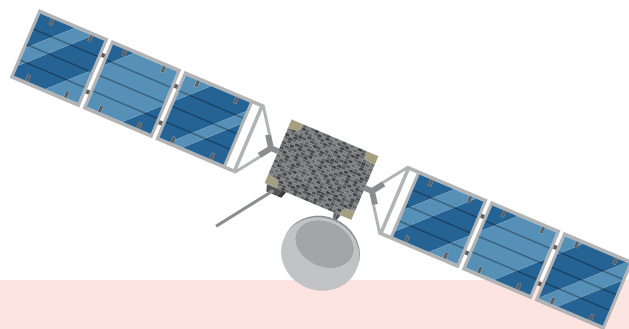
スカパーJSATとOrbital Lasersは、持続可能な宇宙環境の維持改善に貢献するとともに、今後も宇宙で実業する企業として歩みを進めてまいります。

▶ <https://youtu.be/wuoNVBOactc?si=NTpt6aPf9BrIjU2c>



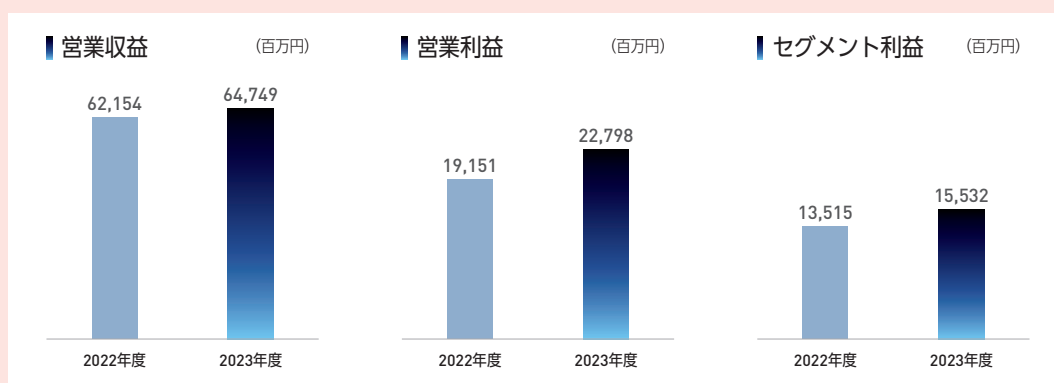
宇宙事業

SPACE BUSINESS



2024年3月期通期連結業績

- ハイスループット衛星JCSAT-1C及びHorizons 3eの利用拡大
- 衛星画像販売の収益拡大
- 国内における回線利用の増加
- 増収と減価償却費の減少等により前期比増益



トピックス

宇宙関連スタートアップとの協業加速のため100億円の投資枠を設定

国内外の宇宙関連スタートアップや宇宙系ベンチャーファンドを対象に100億円の枠を設けて投資を行うことを決定しました。

これに合わせたイベントとして、3月28日に「Space Startup Connect」を開催し、多くの宇宙関連スタートアップ、投資家、事業会社の方にご参加いただきました。さらに、本投資枠の第1号案件として業界最大規模の投資実績がある英国の宇宙ベンチャーキャピタル「Seraphim Space Ventures」への投資も決定・実行しました。有望な宇宙関連スタートアップとの連携を加速し、持続可能な未来のための新たな宇宙ビジネスを共創していきます。



大容量通信衛星「JSAT-31」の調達を決定

2024年5月、新衛星「JSAT-31」の調達契約をThales Alenia Space社(フランス)との間で締結しました。「JSAT-31」は、スカパーJSAT史上最大となる50Gbpsクラスの通信容量と高い柔軟性を持ち、日本、東南アジア、オーストラリア、ニュージーランド、太平洋諸島向けに高速大容量通信回線を提供します。調達中の通信衛星「Superbird-9」等と組合せ、「高速・大容量・高信頼性・使いやすい」革新的な次世代衛星通信サービスを実現し、グローバル・モバイル分野を中心とした需要に対応します。



「JSAT-31」© Thales Alenia Space/E.Briot
(2027年打ち上げ予定)

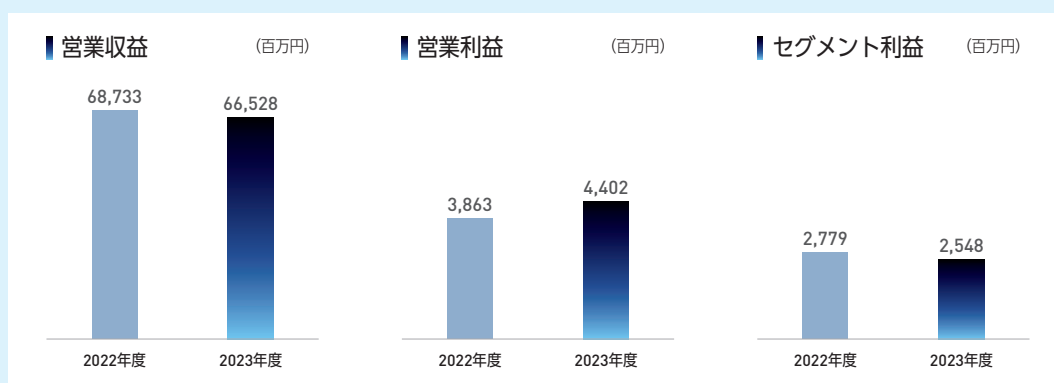
メディア事業

MEDIA BUSINESS



2024年3月期通期連結業績

- FTTH事業収入の増加が増益に寄与
- デジタルシフトなどの費用削減により営業利益は改善
- 投資有価証券評価損の計上がセグメント利益を押し下げ



トピックス

ドイツ ブンデスリーガから VfBシュトゥットガルト来日決定!

スカパーJSATは、2020年にブンデスリーガと20/21シーズンから24/25シーズンまでの5シーズンにわたる独占放送権・配信権、および日本国内における共同マーケティングを含めたパートナーシップ契約を締結し、2022年には、コロナ禍で実現できなかった「ブンデスリーガジャパンツアー」を開催し、長谷部誠選手が所属するアイントラハト・フランクフルトを招へい。翌2023年には、ブンデスリーガ歴代最多優勝を誇る FCバイエルン・ミュンヘンを招へいしました。

3回目の「ブンデスリーガジャパンツアー」となる2024年は、23/24シーズンで上位争いを演じているVfBシュトゥットガルトを招へいし、7月28日(日)に京都サンガ F.C.と、8月1日(木)にサンフレッチェ広島との2試合の開催を予定しています。なお、この試合は公益社団法人日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)と株式会社NTTドコモとの共催により、「Jリーグインターナショナルシリーズ2024 powered by docomo」として開催されます。

スカパーJSATは、日本サッカーの未来のため、日本のサッカーファンに世界基準のプレーを体感できる機会を提供し、サッカー文化の醸成に貢献していきます。今回の「ブンデスリーガジャパンツアー」でも様々な取り組みを予定しております。ぜひご期待ください。



Jリーグインターナショナルシリーズ2024 powered by docomo大会概要

7/28(日) 19時キックオフ 京都サンガF.C. vs VfBシュトゥットガルト
サンガスタジアム by KYOCERA(京都府亀岡市)

8/1(木) 18時30分キックオフ サンフレッチェ広島 vs VfBシュトゥットガルト
エディオンピースウイング広島(広島県広島市)

チケット購入など、本ツアーの詳細は以下サイトをご覧ください。
<https://soccer.skyperfectv.co.jp/bundes/japantour/>



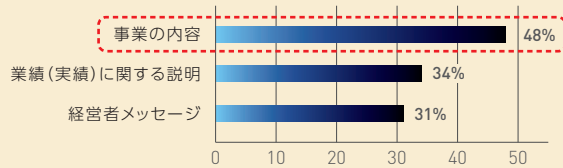
第17回 株主様アンケート結果のご報告

回答数: 1,860件

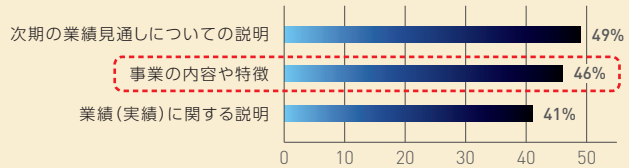


第17回株主様アンケートへのご回答ありがとうございます。株主の皆様からお寄せいただきましたご意見やアンケート結果は、より充実した情報をご提供できるよう誌面の工夫に活かす取り組みを進めています。

Q どの掲載内容を中心にご覧になりましたか (トップ3)



Q 今後、充実を希望する情報をお選びください (トップ3)



上記の結果やフリーコメントでも、分かりやすい事業説明をご要望のお声が多かったため、今回の誌面「事業内容」(P.3)において当社の事業内容を改めて詳しくご説明しています。

また、当社のホームページ「個人投資家のみなさまへ」では投資に役立つ情報を提供しています。Xでは現在進行形で取り組んでいる事業等をタイムリーにお伝えしておりますので、ぜひご覧ください。

ホームページ

「個人投資家のみなさまへ」
<https://www.skyperfectjsat.space/ir/individual/>
過去のIRイベントアーカイブや、株主還元方針もこちらからご覧いただけます。



X (旧Twitter)

スカパーJSAT/宇宙実業社
@sptvjsat_pr
スカパーJSAT公式SNSをはじめました。
ぜひフォローしてチェックください!



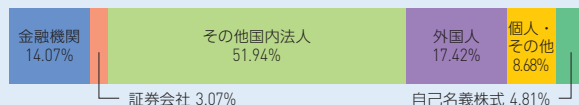
会社概要 (2024年6月21日現在)

会社名	株式会社スカパーJSATホールディングス (SKY Perfect JSAT Holdings Inc.)
設立	2007年4月2日
資本金	10,129百万円
従業員数	848名 (連結) (2024年3月31日現在)
所在地	〒107-0052 東京都港区赤坂1-8-1
電話番号	03-5571-1500 (代表)

株主構成 (2024年3月31日現在)

発行可能株式総数	1,450,000,000株
発行済株式の総数	297,578,423株
株主数	41,408名

株式分布状況



取締役・監査役

代表取締役会長	福岡 徹	取締役 (非常勤)	大賀 公子
代表取締役社長	米倉 英一		清水 賢治
取締役	小川 正人		於保 浩之
	松谷 浩一		青木 節子
		監査役	豊田 硬
			谷口 浩司
			大江 淳彦
		監査役 (非常勤)	高橋 勉
			大友 淳

株主メモ

決算期日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
上記基準日	毎年3月31日
配当の基準日	期末配当3月31日 中間配当9月30日
取引市場	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	9412
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号

お問合せ先

お取扱窓口	証券会社に口座をお持ちの場合、各お取引の証券会社等へお問い合わせください。証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)、下記「お取扱店」にてお取次いたします。
お問合せ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行証券代行部 フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
お取扱店	みずほ信託銀行本店および全国各支店
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行本店および全国各支店 みずほ銀行本店および全国各支店

※支払明細の発行については、上記の「お問合せ先」または「お取扱店」をご利用ください。

免責事項

本株主通信に掲載されている予想、戦略、経営方針、目標等のうち、歴史的事実でないものは、将来の見通しに関する記述であり、これらは、現在入手可能な情報にもとづく経営者の前提、計画、期待、判断などを基礎としています。これらの将来の見通しに関する記述は、さまざまなリスクや不確定要因の影響を受けるため、現実の結果が想定から著しく異なる可能性があります。

